

[020] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9892>

出版情報：中国文学論集. 20, 1991-12-31. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

『中国文学論集』第二十号をお届けします。巻頭には昨年引続き張少康先生にご寄稿いただきました。今回の原稿は、本年八月ソウルでの韓国中国学会に於いてご発表なされたものです。公安派特に袁宏道の文芸思想について四つの面から論を述べていらっしやいます。

二稿目には本年九月、本学での研修を終えられて帰国された人民大学の袁濟喜先生に、曹丕の典論論文を巡る問題についてのご寄稿をいただきました。論述のなかの例えば林田先生の著書への言及等は、ご研修の成果の一端を窺えるものと思われます。次には本学博士課程で現在杭州大学留学中の静永さんに寄稿していただきました。第一三三回文芸座談会でご発表いただいたものです。従来「與元九書」に依拠することの多かつた四分類を、実際の作品の特に作詩時の白氏の立場情況の違いから論じていらっしやいます。

四稿目には広島文教女子大学の根ヶ山先生より『還魂記』に関する論文をいただきました。日本中国学会報所収の「柳」論に関連して、今回は「杜」論として杜甫詩の受容についてのご考察です。それから五稿目の本学博士課程の秋吉さんは、魯迅と同時代中国作家との関連に着目し、今回魯迅と徐玉諾との接点を中心に論じていらっしやいます。

六稿目の福岡大学の笠先生は、比較文学の立場から中国志怪小説の日本仏教文学作品への影響を論じ、そこから中日両国の小説観の違いに論及していらっしやいます。巻末には前回引続き本学博士課程の明木さんに、今回は非常勤講師の教学経験に基づいて中国語教育の特に発音指導の一面についてご報告いただきました。

今回も多くの方々にご寄稿いただきました。ありがとうございます。末筆ですが、本会の創立より発展まで大きくかかわられた樋口先生が本年四月ご逝去されました。先生のご冥福を御祈り申し上げます。（西山 猛記）